

学級 Web ページを活用した日常的交流学習

鹿児島県枕崎市立枕崎小学校 4年1組 益永 秀一

<http://www.ne.jp/asahi/momo/nao/>

1. 実践の目的

- (1) 全国の友だちと情報交換しながらお互いに成長することができる。
- (2) 教室に複数のパソコンを設置することで、日常的な交流が可能になる。
- (3) 体験活動と交流学習、食と情報教育などをうまく組み合わせ効果的な学習を進める。

2. 活用した物や適用した授業等

- (1) 「友だち 100 人プロジェクト」への参加をきっかけに

2002 年 4 月、あるメーリングリストで、ゴーヤーの種の入手方法についての書き込みがあった。複数の学校が種の入手を考えていて、鹿児島県の本校から全国の学校へ発送することとなった。

この発送をきっかけに、「友だち 100 人でできるかなプロジェクト」がスタートし様々な交流が行われるようになった。

ここでの交流は詳しくは述べないが、国語では、学級新聞の作成と交換。理科では、大豆やメロン、落花生の栽培。社会では、水やゴミの学習。その他にも、オリジナルデザートへの創作。元絵から新しい絵を発想する「連画絵のリレー」、一瞬の光のきらめきをデジカメで撮影する「光のポストカード」など楽しいものがいっぱいであった。これらの交流は、Web ページを使い、子供掲示板で自由に意見や感想を交換した。

友だち 100 人プロジェクト参加校：図 1 を参照（神奈川県「大口台小 4 年生」、石川県「大根布小 4 年生」、石川県「大徳小 4 年生」、三重県「百合ヶ丘小 4 年生」、石川県「東明小 4 年生」、富山県「出町小 4 年生」、神奈川県「宮が瀬小 4 年生」、石川県「扇台小 4 年生」、千葉県「旭東小 5 年生」、山形県「平野小 4 年生」）

- (2) 学級 Web ページの活用

2 学期からは、これまでの交流に加え、富山県の寺家小学校と社会科を中心に交流すること。桜島大根栽培を通して交流する「桜島大根栽培プロジェクト」への参加と交流校も内容も大きく広がった。

桜島大根栽培プロジェクト全参加校 35 校の内本校と交流が多かった学校（茨城県「潮来小 5・3 年生」、静岡県「地球クラブ」、静岡県「佐藤小 3 年生」、福岡県「玄海小 6 年生」、佐賀県「玉島小 3 年生」、鹿児島県「枕崎小 6 年生」）

俳句掲示板の活用（寺家小学校・本校）

- ・両校とも俳句に取り組む環境
- ・575 と短い表現のため、ローマ字入力の初期の段階から活用可能。
- ・表示が縦書きで俳句の表現を大切にしている。
- ・交流校とともに活用し、季節をより感じやすい。
- ・感想交換のための掲示板と併用することで、より深く交流している。



図 1 100 人プロジェクト参加地域



図 2 4 年 1 組 Web ページの一部

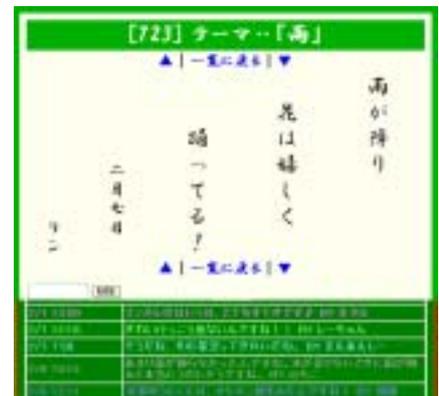


図 3 俳句掲示板と感想掲示板

ホタルカツオ掲示板（滑川市名物ホタルイカ，枕崎市名物カツオから命名）図4参照

- ・伝えたいことを言葉だけでなく，画像でも伝えることができる。
- ・パスワードを設けることで，交流校以外は書き込むことができない。（見ることは自由）
- ・デジカメでの撮影から Web へのアップまで子供自身で行う。（スキルの向上）
- ・相手への思いや気持ちが伝わる書き込みができるようになった。（意識の向上）
- ・季節や季節の違いをより感じるができる。

ダイコン日記（鹿児島・静岡・佐賀・宮崎・福岡・茨城など）

- ・観察記録を画像付きでアップできる。
- ・他の学校の成長と比較することができる。
- ・栽培についての質問や，励ましを交換しあうことができる。

読書の花束の活用（鹿児島・熊本・宮崎・富山）

- ・読書紹介をすることによって，本への関心を高め，読書意欲の向上を図る。
- ・設置のきっかけは，司書補に「パソコンもいいけど本も読ませてね。」と言われたことだった。
- ・学級の読書量向上と，読んだ本の紹介を考え設置した。

テレビ会議の活用（鹿児島・石川・富山）

- ・始業前や昼休みなど自由に交流することができる。
- ・国語や社会で活用し，調べ学習や発表会に活用した。
- ・V-chat や CUSeeMe，Phoenix を使用しているが回線速度の問題から性能を十分発揮できない。

学級に PC を 5 台設置することで，日常的な交流活動が活発になった。

- ・中古パソコンや安いパソコンを導入し，グループに 1 台程度確保した。
- ・保護者からの協力もいただき，1 台寄贈された。



図4 ホタルカツオ掲示板

3. 成果と課題

(1) 成果（気持ちや態度の向上が見られた。）

- ・子供たちが日常的な交流を通して，相手の気持ちを考え，思いやりを持って接することができた。
- ・交流校と思いやりを持った接し方が，学級内の人間関係も良好になった。
- ・日常的な交流を継続することで，教科での交流も効果的に行うことができた。
- ・複数の学校と交流することで，様々な考え方の違いに気づき，よりよく交流しようとする態度が見られた。

(2) 課題（物的環境に影響されることが多い。）

- ・テレビ会議を行う際，相手の機器や通信速度の違いによって，うまくいかない場合もある。
- ・郵便物や宅配便の送付に資金が必要である。
- ・学級に多くのパソコンを導入した場合，LAN 端子よりも電源の確保が難しい。
- ・掲示板に頻繁に書き込む子とそうでない子の差が見られた。
- ・画像掲示板を安心して使えるような仕組みがほしい。（特に問題はなかった。）